

BL6A での時分割ラウエ法の予備研究
渡邊信久（名大シンクロトロン光研究センター）

ワイセンベルグカメラの詳細や、神谷さんによる BL6A 建設の経緯は坂部さんが、立ち上げの経緯は中川さんが話すと思います。そこで、渡邊は BL6A で実施した時分割ラウエ法の話をしてみようと考えています。これは坂部さんが代表の「放射光による蛋白質動的構造解析のための時間分解ラウエ法の開発」という 1987～1989 年度の一般研究 (A) で実施したものです。佐々木教祐さんが分担者で、私は D2 から学振の研究員の頃です。これを踏まえて 1993～1996 年度の「放射光による蛋白質結晶構造のミリ秒オーダーのダイナミックスの研究」という重点領域研究が実施されたのは皆さん良くご存知のとおりです。ラウエ法というと BL18B ですが BL6A でも「ああそんなこともあったねえ」という話が出るのを目指してみます。ラウエ法だけで 30 分用の資料が揃わなかったら BL6B で開発した回転傾斜集光分光器の話もするかも知れません。

ちなみに BL6A で使用されていた 2 代目の分光器と光学台は、ようやく建設がスタートした中部シンクロトロン光利用施設(仮称)にゆずってもらいました。表面・界面研究用の回折計を 2 θ ステージに搭載して再利用する予定です。